【第三幅】

①善光は一光三尊如来を供奉して信濃に向かう。昼は善光が如来を背負い、夜は如来が善光を背負って険阻な山道を旅する。
②善光の私宅の臼の上に如来を安置。
③善光は私宅に如来を安置することを畏れ多く思い、村人と共に一宇を建立し安置した。
④聖徳太子は信州の如来に書状を進上し使者を送った。仏前に筆硯紙墨を置いたところ如来の返報を賜る。
⑤如来信濃下向の41年後、善光の嫡男善佐が頓死。善光は如来に救済を乞う。
⑥善佐は焔魔王宮で裁きを受けていたが如来が現れ救済される。
⑦地獄からの帰途獄卒に連行された天皇に出会い、善佐は身代わりを申し出、両方共に救済され、蘇生する。
⑧天皇は直ちに善光・善佐親子を宮中に召して、信濃・甲斐の国司に任じ、信濃国に如来堂の建立を許す。
⑨信濃善光寺が立派に造営された。【引用:**寛正六年(1465)再建の伽藍を描いたものであろう。**】